

ジェンダー平等社会の実現において
学ぶ! つながる! ひろげる!

くわしくは
こちらへ
↓



参加者のみなさん同士で日頃考えていることなどを交流しています。同世代の考えを知ることは自分自身の考えを広げ、また新しいつながりをつくるきっかけにもなります。誰もが暮らしやすい社会のために、楽しく、真剣に思いを出し合いました



「曖昧にするのではなく相手の意思をしっかりと確認すること」
「自分の体を守るために、正しい知識を持つことが大切」

voice

・ 今後の自分の人生を歩むうえで20代だからこそ今意識すべきことがあると気付き、自分の生活習慣や行動を見つめ直す機会となりました。
・ 「性的同意」について知り、自分の行動が同意ととらえられないように注意すると共に、性に関わらず、他者になにかする際には同意をとるようにしたいです。
・ コンドームの正しい使い方を教えていただくことがなく、とても大事なことで、貴重な体験でした。
・ 講師役として参加し、自分たちが学習してきたことを他の学生に伝えることから学びが深まりました。



第3回 7月29日(火)

テーマ 「学校とジェンダー」

藤野 敦子さん(京都産業大学教授)

講義では、「ジェンダーとは何か?」ジェンダー不平等が生じる根本理由を考える」をテーマにお話いただきました。意見交流では、「学校の校則(ルール)についてディスカッションをしました。」



・ 社会のシステムによって決められたルールなどに縛られすぎず、声を上げていけるようにしたいです。
・ フェミニズム運動の影響を受けなかった日本は、ジェンダー平等の観点で遅れており、私たちが変えていきたいです。
・ 自分が中学生や高校生の時には気付かなかったことについて、今ならおかしいと気付けた。ルールを変えるためには、多くの人の意見を集めることが大切だと思いました。
・ 私がいたグループで校則が変わったという話を聞きました。変化を目撃したことで、ルールは変えられるという意識を持つことができました。

「ジェンダー不平等、でもそれに気づき行動することで変えることができる」
「平常時からの男女共同参画の推進が防災・復興の基盤となる」
「支援内容の平等ではなく、結果の平等を」

第4回 9月20日(土)

テーマ 「防災とジェンダー」

藤野 真理子さん(ミューズストリーム代表)

講義では、「防災とジェンダー」防災をジェンダーレンズで探る」をテーマに、なぜ、防災にジェンダー視点が必要なのか、ジェンダー役割から考えました。ワークショップでは、「生理用品や女性用下着を女性が取りに出来ない。運営員としてどのように対応するか」について意見交換しました。



・ 自分では思いつかなかった災害時の問題点もあった。そのため、他者と交流しながら災害時の想定をしておくことが大切だと思いました。
・ 災害時などは大きく括って対応をしてしまいうそうになりますが、一度立ち止まって「本当にその人に合った支援ができているか?」を考える必要があると思いました。
・ 色んな人たちと、災害時の課題点と対応策を考えました。男性の参加者の方も沢山意見を聞いてもらいました。このように、災害時でもお互いに歩み寄りながら助け合えれば良いと思いました。

voice

voice

第5回 10月11日(土)

テーマ「性の多様性」
橋本竜二さん(にじいろBiwako代表)

「性の多様性について、どんな社会にしていきたいか」のテーマで橋本さんにご講義いただきました。事前に「話したい人」と「聞きたい人」にグループ分けをして、講師からのジェンダーやセクシュアリティに関する問いに対して、グループで話し合い、認識を深める場となりました。

講師からは「この場にも当事者がいる前提で」と話があり、あらためて、はっとさせられました。



voice

当日の講義を受けて(GINET職員より)
・その日出た話を持ち出さないという約束は、その場にいるだろう当事者の人を守るものだと思います。

・同性結婚を求めておられる背景には、さまざまな法的な保障が受けられない現状があることを再確認しました。

・自分の職場、家庭や地域、身近なものとして捉えていく必要があると感じました。

第8回 11月30日(日)

テーマ「フェスタで取組発表」

「GINETフェスタ2025」にて、今年度のジェンター平等ミーティングで学んできたことについて発表しました。滋賀大学経済学部・データサイエンス学部のみなさんの発表もあり、お互いの発表を聞き合い、学びを深めました。フェスタに参加の一般の方も、発表を聞きにきてくださいました。



voice

・制作過程の中で今ある課題を改めて見つめ直すきっかけになり、社会に存在する固定概念や先入観を実感する機会になった。教育とジェンダー、防災とジェンダーなど、ジェンダーは様々なものと繋がりがあるということを考えさせられました。

・ジェンダー問題は触れるのがむずかしいイメージや印象がありましたが大切なことだと再確認できた。またこれからも考え広め多くの人が知れるようになったらいいなと思いました。

・自分の関心があること以外にも様々なことを知りながら取り組むことができた。これからも自分の知見を広げられるような活動ができれば嬉しいです。

「ジェンター平等ミーティングのような参加型の学びがもっと広がれば一人ひとりがジェンター問題を自分ごととして考えるきっかけとなる」
「自分から声をあげていくことの重要性がわかった」



第6回 10月23日(木)

テーマ「働く」とジェンダー」
おでかけカレッジ(株式会社滋賀銀行さん)

NPO法人男女共同参画をすすめる会・IYOU 淡海さんの「しがミモザカレッジ」と連携して(株)滋賀銀行へ訪問し、女性活躍推進の取組などについて学びました。感謝の気持ちを忘れないこと、働く中で自分が成長できるということ、働いている方の生き方や信念など、社員の方に直接話を伺うことができ、貴重な機会となりました。



voice

・私自身、来年から社会人になるということもあり、働くということについて心づもりをしておく良い機会になりました。

・働いている人の考えや生き方など、この場に来ないと分からないことを知ることができて良かったです。

・直接お話を聞く機会が減多にないので、色々な仕事や人生などについて聞いておもしろかったです。社員の3人の方がそれぞれの考えを持っていることがすばらしく、自分という人間の価値の大切さを感じた。自分の軸をしっかり持っている人はかっこいいと思いました。

第9回 12月11日(木)

テーマ「知事との意見交換会」

今年度のジェンター平等ミーティングの取組の成果発表として、知事の前でプレゼンテーションを行いました。その後、知事と意見交換をしました。学生の個々の思いや考えを直接知事にお伝えし、また知事からご返答を頂くことができました。



voice

・私たちが学んできた集大成を知事に発表できて良かったです。意見交換し、思考をブラッシュアップできて、今回の学びをこれらの人生でも大切にしたいと思いました。

・自分の意見を伝えることの大切さを改めて感じた。知事に報告するということはなかなか経験できないことだし、知事のご意見も伺えたので非常に有意義な時間になったと思いました。これからもこのような活動が続けていけると嬉しいです。

・ジェンダーについてよく考えられる機会ができたので良かったです。これからも考えていきたいなと思いました。

